柏レイソルとホームタウンの関係性についての考察
A case study of the relationship between Kashiwa Reysol and the actors of the hometown

1K09B225　　渡邉　將大
指導教員　主査　作野誠一　先生　　副査　松岡宏高　先生

【目的】

1993 年に始まった日本プロサッカーリーグ（Ｊリーグ）では、「地域密着」が強く打ち出された。J クラブの一つである柏レイソル（以下レイソル）とホームタウンの関係も約 20 年となるが、この間にクラブが地域にどの程度根付き、どのように発展してきたのか、これらの要因を明らかにすることは、今後のクラブと地域の持続的な発展を考えていくうえできわめて重要であると考える。

そこで本研究では、レイソルと柏市（行政）をはじめとするホームタウンのアクターが良好な関係を築き上げている要因について明らかにすることを目的とする。

【方法】

まず、本研究の対象であるレイソルとホームタウンについて理解を深めるために文献調査を行う。その後、クラブ、ホームタウンのアクターそれぞれが行っている活動について関連資料及び文献調査の検討を通じて明らかにする。しかし資料・文献だけでは限界があることから、レイソルとかかわりを持つ人物に対し、インタビュー調査を行う。行政の立場から柏市役所協働推進課Ｓ氏に、地元企業の立場として三小通り商店会の K 氏に、そのほか地域住民数名に補足的なインタビュー調査を行った。

【結果】

まず文献調査を通して、レイソルは、柏市だけでなく東葛地域全体をホームタウンとして活動し、そのホームタウンの行政や商店街、住民と協力して地域活性化に貢献していることが明らかになった。それに対して地域は、住民が率先して後援会やボランティアに参加し、レイソルを裏で支えていた。商店街ではフラッグを飾ったり、応援歌を流したりとレイソルを盛り上げていることが明らかになった。

インタビュー調査では、行政がレイソルに対しての経済的支援、プロモーション活動、選手と地域の交流の場づくりなどを行っていることが明らかになった。また地域に対しても、スポーツ教室などのスポーツイベントを多く開き、スポーツを通して地域活性化を試みている。商店街では、レイソルサポーターを対象とした特別セールなどを行い、ホームタウンを盛り上げている。

レイソル、行政、商店街、住民それぞれの活動がお互いにプラスに働くことによって、レイソルとホームタウンの良好な関係が形づくられていることが調査から明らかになった。

【考察】

表１　ホームタウンからみた柏レイソルと地域の関係

	現状	課題
行政	・経済的支援 ・PR 活動 ・スポーツイベントの開催	・出資額の少なさ ・サポートの手薄さ
商店街	・売上アップ ・PR 活動 ・特別セールの実施	・試合日以外の閑散さ
地域住民	・ボランティア ・試合やイベント参加	・情報の不届き ・交通問題

表１は柏レイソルと行政・商店街・地域住民の関係を表にまとめたものである。行政はレイソルに対し、経済的支援やプロモーション活動を行っている。しかし、スポーツで地域を活性化させようというねらいはあるものの、柏レイソル発足当時から出資額が変化していないことを課題であると感じている。商店街ではフラッグや看板などをところどころに設け、レイソルのプロモーション活動に力を入れている。試合日には商店街もにぎわい、店の売り上げもアップする。しかし、試合日以外には人通りも少なく閑散としてしまう。地域住民はボランティアに参加し、レイソルを裏で支援している。しかし、ボランティアに参加する人数は毎年ほぼ横ばいで、決められた人しか参加していないことが課題である。また、レイソルが開催するイベントやボランティア募集の情報などが、あまり十分に伝わっていないという現状もある。

これらの各々の課題を解決することで、レイソルとホームタウンの関係はよりよいものになるであろう。